

戰場下原獲収!!!



DEAD-LINE-POP-MANIA

18禁





ツンデレちゃんは阿良々木君とHできるようになりたい
と言って僕に相談してきたんだよ。
でも阿良々木君以外の男とする気もなければ
処女のまま擬似体験したいなんて言い出すから
こういう方法しか無かったってわけさ。

ツンデレちゃんを犯すのは阿良々木君の『裏の存在』、
別次元の靈魂といえれば解かりやすいかな…

阿良々木君を『陽』の存在とすれば
真逆に位置する『陰』の存在…

蕩れ…

獲れ…

獲れ…
戦場ヶ原…

さしずめ『阿良々木 間』君
といたところかな。

ちゃんとペニスもついてるよ…



まず最初は軽い儀式をして、
ツンデレちゃんの体を靈に
馴染み易くしてから
本番と… いや、
擬似本番といこうか。
従順に受け入れつつも
敵意は失わないように
…出来るかい？

「はい…出来ると思います。」

いいねえ…その意気だよ。
そういう意思が『陰』の欲望と対等になりえるんだ。

いわば靈的エネルギーで
形造られたペニスだよ。
でもエネルギー体といっても
犯される方はしっかりと
快感を感じるから
膜を破らずに直接腔内や
子宮内を責められてる感覚を
得られるんだよ。



そっそうだわっ これはただの儀式よ……!
こんなニセモノに…… やっ……やらしいことされて
気持ちよくなんてっ なってないいいいいいい!!
はあっはああっこんななに……
Hがっ 気持ちいいなんてえええ



ンッンッんんっ!

はあぁっあそこ…がっ
とけちゃいそう…!!

な…縄が… くいこんで…

くり…

クリ…
クリ…に…

こすれてるぅ～…

い…今にも…
気を失ってしまいそう…!!



んあぁあぁっ

もっ
もうだめっ

おしっこ…

出てしまいそう…!!

で… でちゃっ
でちゃうううう～!!



あああああ～

これが… 男の…

ちんちんの味～…
すっごくやらしい味い～

あああ…頭の中が…
マヒしてくうう～



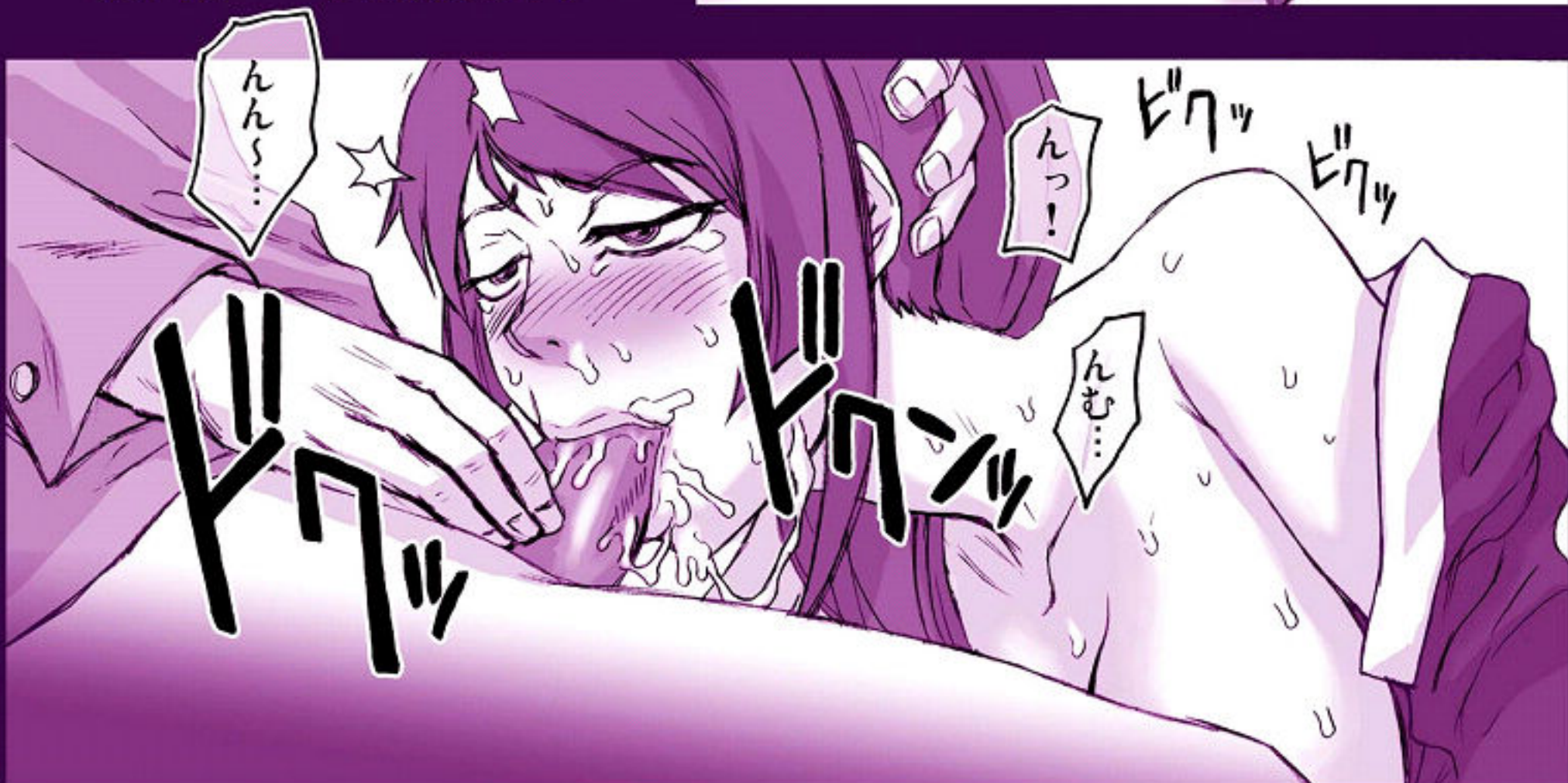
んんんん～ でてるう…

いっぱい…でてくるう～

あたしのフェラ…

こんなに出しちゃうほど
気持ちよかったんだ…

おいしい… クセになりそう～





おまんこっ
とけるうう！

くあああああ！

ズ
ッ

グ
ッ

グ
ッ

ガ
ッ
ガ
ッ
ガ
ッ

ゴ
ッ

ゴ
ッ

ゴ
ッ

ゴ
ッ

あへああっ!

すごいっ!
コレ気持ちいいっ
大好きっっ!!

びくん!!

びくん!!

びくん!!
びくん!!
びくん!!

びくん!!
びくん!!





イグツ
ぐっ
うっ!!

ビクッ!!

うっっ
はああっ!!

びるるる

ズクッ



「……終わったのか？」

「ええ……」

「……………」

「……………」

「……………」

「阿良々木君…あなたまさかこのまま何も訊かないつもりじゃないでしょうね……!?」

「い…いや、話しづらいなら無理に訊く事もないかなって…」

「いいえ！訊いてもらいます！」

「…むしろ話したくてしょうがないみたいだな…」

「……………」

「濃厚だったわ!!」

「……………」

「もうすこしだけこっちがアクションに困らないように配慮してはもらえないだろうか。」

後 事

after the ritual

「これで実践では私のほうがリードしやすいってものね。」

「…そうなのか……?」

「どうも腑に落ちない反応ね…ああ…そういうこと…これから…阿良々木君は私が『陰の阿良々木君』と青少年には甚だあるまじきどんなよからぬ行為を行っているのかとあれこれ想像して悶々とした時間を過していったわけね。」

そしてその動揺を私に悟られまいと必死で平静を装っている…。」

「まるで初めて性的刺激を味わった幼い男の子がその高まる情欲をどう治めていいものかわからず挙動不審なハイテンションを繰り広げる様にそっくりね！」

「例えが長くてよくわかんねーよ！てゆーか別に悶々としてねー!!」

「あら…それは心外ね…阿良々木君にとって私はその程度の存在なのかしら」

「いや…その…悶々とはしてないけど…ヤキモキはしてたかな…」

「そう…それなら少し安心したわ。」

「…そうだわ！これから阿良々木君のテクニックを見定めてあげます。いざそのときが来て、阿良々木君が『陰』にも劣るテクニックしか持ち合わせていなかったのでは目も当てられないでしょう?というわけで…全力で挑んでくる事!!」

「おい…それって実践に入るんじゃないか……」

